眼　　科

1.　眼科の紹介

眼球およびその付属器の疾病の予防と治療を主として行う外科系診療科です。当科の特色は、白石教授の専門とする角膜疾患を中心として、網膜硝子体疾患、緑内障、ぶどう膜炎、斜視弱視、涙道疾患、眼窩疾患と眼科のほぼ全ての領域をカバーし、いずれの分野も最新鋭の検査・治療機器を用いて診療活動を行っていることにあります。

2.　プログラムの目的と特徴

当科の研修プログラムは、日本眼科学会専門医制度カリキュラムに準拠し、眼科研修医ガイドラインに示された眼科臨床に必要な基本的知識、眼科主要疾患に関する診断・治療技術及び眼科医として必要な基本的態度の習得を目標としています。

3.　経験目標

⑴　眼科疾患を適切に診断し、治療方針を立てることができる。
⑵　細隙灯顕微鏡検査、眼底検査により、患者診察ができる。
⑶　眼科の基本検査が行え、その読影ができる。
⑷　各手術（白内障、緑内障、角膜移植、硝子体手術他）の助手ができる。
⑸　指導医のもと、基本手術手技が行える。
⑹　病棟医として、独立して受け持ち患者の診察ができる。
⑺　受け持ち患者の全身管理を行える。
⑻　受け持ち患者､家族と良好な人間関係を確立できる。
⑼　看護師、視能訓練士と協力して、患者の治療を行える。
⑽　カンファレンスや学術集会で、症例を提示し、討論することができる。

4. 指導医と指導体制

教　授	白石　　敦	角結膜・涙道
准教授	溝上　志朗	緑内障
准教授	鎌尾　知行	涙道・眼形成
准教授	坂根　由梨	角結膜
助　教	小林　武史	網膜硝子体
助　教	竹澤　由起	角結膜・円錐角膜
助　教	浪口　孝治	緑内障

助　教	三谷亜里沙	涙道・眼形成
助　教	鳥山　浩二	角結膜・眼感染症
助　教	平松友佳子	網膜硝子体・ぶどう膜
助　教	飯森　宏仁	斜視弱視・小児眼科
助　教	池川　泰民	網膜硝子体
助　教	井上　英紀	角結膜・眼感染症
助　教	立花　亮祐	網膜硝子体

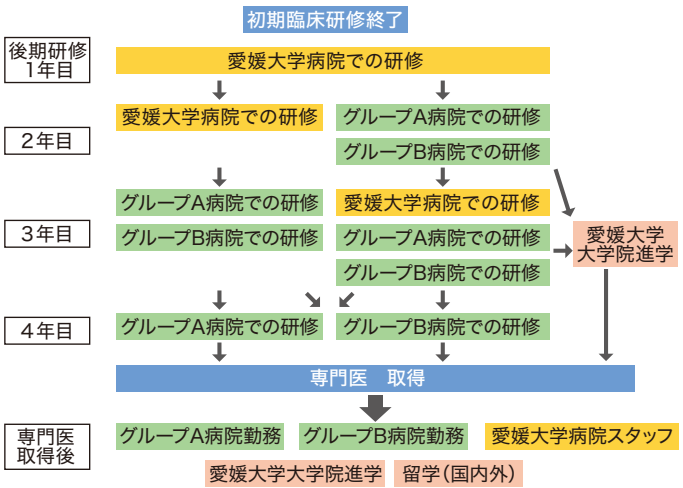
当科は、愛媛県内唯一の日本眼科学会承認眼科研修プログラム施行施設です。眼科専門医受験資格を得るためには４年以上の眼科臨床研修期間で当初２年間に１年以上プログラム施行施設での研修が義務付けられています。

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	病棟回診 手術／外来	抄読会／病棟回診 専門外来	病棟回診 手術／専門外来	病棟回診 専門外来	病棟回診 専門外来
PM	手術／外来	専門外来／病棟総回診 症例カンファレンス	手術／外来	専門外来	手術／外来

6. 新専門研修プログラム

１年目は、全専攻医が愛媛大学附属病院で研修します。愛媛大学附属病院は症例が豊富で、各専門領域すべての疾患、救急疾患、希少疾患、難病を経験することができます。また、内眼手術の件数および専門性の高い手術も多いため、眼科手術全般の助手を経験し、手術手技の基本も習得できます。２年目以降は、Ａグループ、Ｂグループ、場合によっては愛媛大学附属病院で研修します。Ａグループを選択すれば、やや高度な手術をより多く経験することができます。Ｂグループを選べばcommon diseaseをより多く経験することができます。いずれのコースを選んでも最終的に研修到達目標に達することができるようにローテーションを調整します。



グループＡ病院
- 愛媛県立中央病院
- 松山赤十字病院
- 住友別子病院
- 市立宇和島病院

グループB病院
- 鷹の子病院
- 松山市民病院
- 南松山病院
- 済生会松山病院
- 済生会西条病院
- 白井病院

7. 専門研修修了後について

「新専門研修プログラムについて」にまとめて記載しています。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：井上英紀（愛媛大学大学院医学系研究科眼科学講座　助教）
TEL：089-960-5361　E-mail：ophusirc@m.ehime-u.ac.jp